

JRIS

鉄道車両—妻かもし点検ふた設計標準

JRIS R 1006 : 2016

(JARI)

平成 28 年 4 月 1 日 制定

日本鉄道車輛工業会規格審査会 審議

(日本鉄道車輛工業会 発行)

日本鉄道車輛工業会規格審査会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	手塚 和彦	株式会社テス
(委員)	中山 康二	国土交通省鉄道局
	宮木 昌幸	明星大学名誉教授
	近藤 圭一郎	千葉大学大学院
	古閑 隆章	東京大学大学院
	岡本 勲	公益財団法人鉄道総合技術研究所
	照井 英之	東日本旅客鉄道株式会社
	松本 耕輔	東京地下鉄株式会社
	石塚 孝志	日本車輛製造株式会社
	和嶋 武典	株式会社日立製作所
	岡方 義則	新日鐵住金株式会社
(鉄車工委員)	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
(顧問)	溝口 正仁	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
(事務局)	田中 裕輔	一般社団法人日本鉄道車輛工業会

日本鉄道車輛工業会 基準整備委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	岩滝 雅人	株式会社日立製作所
(委員)	塚原 克之	川崎重工業株式会社
	新川 明宏	日本車輛製造株式会社
	村田 和実	近畿車輛株式会社
	新井 静雄	株式会社総合車両製作所
	向井 政彦	新潟トランス株式会社
	土井 裕	三菱重工業株式会社
	島山 富美朗	株式会社日立製作所
	山本 肇	株式会社東芝
	塩見 省吾	三菱電機株式会社
	梅澤 幸太郎	富士電機株式会社
	佐々木 敏夫	東洋電機製造株式会社
	岡方 義則	新日鐵住金株式会社
	藤原 達雄	ナブテスコ株式会社
	石川 達哉	日本信号株式会社
	鈴木 静男	株式会社京三製作所
(鉄車工委員)	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
(事務局)	田中 裕輔	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	守谷 文康	一般社団法人日本鉄道車輛工業会

制 定 : 一般社団法人日本鉄道車輛工業会 会長 制定:平成 28.4.1
 掲 示 : 鉄道車両工業;工業会のホームページ:URL ; <http://www.tetsushako.or.jp>
 発 行 者 : 一般社団法人日本鉄道車輛工業会
 (〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-2 NIT-TEL ; 03-3257-1905 NTT-FAX ; 03-3257-3200)
 審 査 : 日本鉄道車輛工業会規格審査会
 作成委員会 : 当工業会基準整備委員会

この規格についての意見又は質問は、当工業会にお願いします。
 なお、この規格は、原則として5年を経過する日までに確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 種類	2
5 設計	3
5.1 一般	3
5.2 形状、寸法及び構成	3
5.3 強度及び剛性	3
5.4 安全性に配慮した形状	4
5.5 はめ込み形点検ふたと柱きせとの隙間	4
5.6 可動部品との隙間	4
5.7 内部に配置する装置・機器の取付	4
5.7.1 取付作業及び点検保守に必要な空間の確保	4
5.7.2 取付方法	4
5.7.3 配線	4
5.8 隣接する設備品との関係	4
5.9 清掃性	5
5.10 表面に取り付ける設備品	5
5.11 外観の見付	5
6 構成及び部材	5
6.1 構成	5
6.2 部材の選定	5
7 点検ふたの取付及び固定	6
7.1 点検ふたの上部	6
7.2 点検ふたの下部	7
8 支え棒	9
9 材料	9
附属書 A	10
附属書 B (参考) 設計のチェックシート	12
解説	13

まえがき

この規格は、“日本鉄道車輛工業会規格（以下、鉄車工規格という。）の制定に関する規程”の規定に則り“鉄車工規格審査会”の審議を経て、日本鉄道車輛工業会長が改正したものである。

この規格は、著作権法によって保護される著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。日本鉄道車輛工業会長及び鉄車工規格審査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

参考 室内点検ふたに関する日本鉄道車輛工業会規格

番号	規格番号	名 称
1	JRIS R 0105	鉄道車両—異形ヒンジの標準
2	JRIS R 0117	鉄道車両—抜きヒンジの標準
3	JRIS R 0204	鉄道車両—室内大形点検ふた設計標準
4	JRIS R 0205	鉄道車両—側かもい点検ふた設計標準
5	JRIS R 0214	鉄道車両—室内小形点検ふた設計標準
6	JRIS R 1006	鉄道車両—妻かもい点検ふた設計標準
7	JRIS R 1101	鉄道車両—平ヒンジ

JRIS “R シリーズ” 制定の背景

2002（平成 14）年まで作成・整備してきた“鉄車工標準：RIS”は、1969（昭和 44）年代の車両構造の多様化の中で、車両部品の汎用品化（共通使用）、市販品の車両部品への活用などを可能にする活動の一環として、価値分析の手法の活用及びそれぞれの分野のノウハウを取り入れながら、製品仕様、設計標準、作業標準などを標準として定めてきた。

近年、JIS は国際規格との整合化の方針に沿って性能規定化に移行しつつあるが、RIS は鉄道車両業界で必要とする事項を規格として定めているため、従来の RIS の制定方針に沿う標準と新しい JIS の考え方に沿う標準との複数で構成されている。

今後、我が国の進んだ技術をベースにした団体規格が、国内のみならず国外でも活用できるようにするために、2003（平成 15）年 1 月に鉄車工規格の作成・登録を公正にするための手順を定めた。この目的に沿うように、既存の“鉄車工標準：RIS”は、順次“鉄車工規格：JRIS の R シリーズ”への改組と必要な見直しを行って原案をまとめ、あらためて鉄車工審査会の承認を経て制定・登録する作業がスタートした。改組して新規に登録する規格の番号は、従来との関連がわかるように、前身の RIS の番号の前に零（0）を加えて四桁の番号で構成する。

なお、2003 年以降新規作成・登録する“R シリーズ”の規格は、原則として 1001 番以降でグループに区切った番号で登録する。ただし、RIS ベースの規格との関連が強い場合、関連規格に近い番号で登録することがある。

JRIS は、関係する技術分野に応じて五つに区分した体系で構成していて、この規格の“R シリーズ”のほかに、“D”、“E”、“J”及び“W”シリーズがある。

鉄道車両—妻かもい点検ふた設計標準

Rolling stock—Design guidelines for end door header inspection covers

1 適用範囲

この規格は、普通車両の妻引戸上部の室内側に設ける妻かもい点検ふた（以下、点検ふたという。）の設計に適用する。ただし、受渡当事者間の協定によって、この規格の一部又は全部を、次の部分へ適用することができる。

- 優等車両の外妻引戸の室内側及び内妻引戸の上部に設ける妻かもい点検ふた
- 妻引戸以外の引戸上部の室内側に設けるかもい点検ふた

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS A 5905	繊維板
JIS E 4001	鉄道車両—用語
JIS G 3131	熱間圧延軟鋼板及び鋼帯
JIS G 3141	冷間圧延鋼板及び鋼帯
JIS G 4305	冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
JIS G 4309	ステンレス鋼線
JIS H 4000	アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条
JIS H 4100	アルミニウム及びアルミニウム合金の押出型材
JIS K 6745	プラスチック—硬質ポリ塩化ビニル板
JRIS J 0751	鉄道車両—メラミン化粧板
JRIS R 0103	鉄道車両—内装用押出型材の標準
JRIS R 0105	鉄道車両—異形ヒンジの標準
JRIS R 0110	鉄道車両—押ねじの標準
JRIS R 0117	鉄道車両—抜きヒンジの標準
JRIS R 0119	鉄道車両—止錠の標準
JRIS R 0205	鉄道車両—側かもい点検ふた設計標準
JRIS R 1101	鉄道車両—平ヒンジ

規格概要につき以下は省略する。